

事項	県南地方におけるリンゴ褐斑病の発生実態と防除対策		
ねらい	これまでほとんど発生がみられなかったリンゴ褐斑病が、平成9年に県南地方の一部地域の園地で多発した。本病原菌の密度が高まっていると考えられるので、参考に供する。		
指導 参考 内容	<p>1 発生実態</p> <p>三戸郡名川町向山及び葉柴山の2地域の園地で発生が認められた。特に向山地域の一部地区では発生が多く、同地域のりんご園のほぼ全域（約35ha）にみられた。激発園では、9月下旬に本病に対して防除効果の高いトップジンM水和剤が散布されたが、この時期では発病は抑えられてはいなかった。11月には一部園地で果実の被害も認められた。</p> <p>なお果実被害については、青森県では平成2年に名川町で初めて確認されている（果実における病徴及び病原菌の特徴については、平成3年度指導参考資料参照）。</p> <p>2 多発原因</p> <p>病原菌の密度が高まっていることに加えて、薬剤の散布間隔が12～15日と長く、散布量も350ℓと少なかったことによるものと考えられる。</p> <p>3 葉の病徴</p> <p>(1) 紫褐色の小斑点が散生し、拡大すると重なって不整形・大形の褐色病斑となる。病斑上に虫糞状の黒い小粒点が多数生じる。</p> <p>(2) 被害葉は病斑の周縁部に緑色を残したまま黄変し落葉する。黄変せず紫褐色の小斑点が多数発生するものもある。</p> <p>4 今後の対策</p> <p>(1) 防除の重点時期である6月下旬～8月下旬に有効薬剤（有機銅剤、キャプタン・有機銅剤、ジラム・チウラム剤、アントラコール水和剤、ベフラン液剤）を約10日間隔でむらなく散布する。また、アリエッティC水和剤は斑点落葉病の防除剤として使用すると褐斑病も同時防除できる。</p> <p>(2) 前年に発生が多かった園地では病原菌密度が高まっているので、7月下旬又は8月上旬の基準薬剤に、トップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍を1回加用する。</p>		
期待される効果	褐斑病の防除が徹底される。		
利用上の注意事項	ベフラン液剤は7月上旬までは果実にサビを生じる恐れがあるので使用しない。		
担当	青森県畑作園芸試験場 病虫肥料部 南部地域病害虫防除所 三戸地域農業改良普及センター	対象地域	県南地方全域
発表文献等	平成9年度 青森県畑作園芸試験場試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

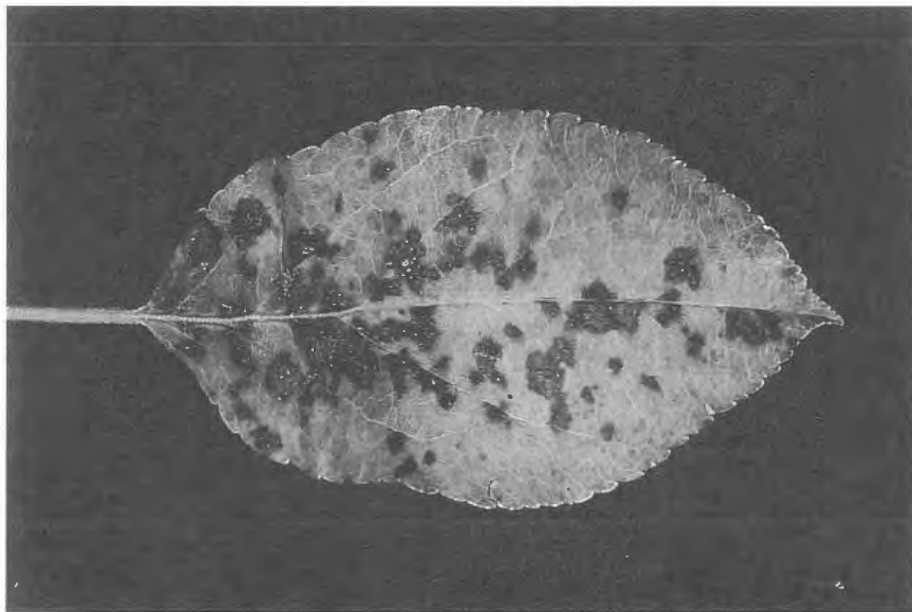
表1 リンゴ褐斑病の発生状況

(平成9年青森畑園試、南部防除所、三戸農改センター)

No	調査園地	発病葉率*	備考
1	五戸町佐野A	— %	
2	〃 佐野B	—	
3	〃 佐野C	—	
4	〃 豊川	—	
5	倉石村中市	—	
6	〃 館町	—	
7	新郷村松木田	—	
8	名川町五日市A	—	
9	〃 五日市B	—	
10	〃 五日市C	—	
11	〃 上名久井A	—	
12	〃 上名久井B	—	
13	〃 平	—	
14	〃 向山A	14.2	
15	〃 向山B	82.4	11月7日、被害果確認
16	〃 向山C	55.6	
17	〃 向山D	0	被害葉散見
18	〃 葉柴山	0	被害葉散見
19	南部町大向A	—	
20	〃 大向B	—	
21	三戸町泉山	—	
22	〃 梅内	—	
23	田子町舞手	—	

注1 *) — : 発生なし

2 調査月日、品種：平成9年9月30日～10月2日、ふじ



リンゴ褐斑病の被害葉 (品種：ふじ)